

近年、装具の世界に変化が起きている。新しい素材や構造、あるいは油圧ダンパーによる制動システムなどの開発がみられ、それらを積極的に運動療法に活かすことによって、これまでとは違った効果がみられるようになってきている。その歴史的背景はわが国の理学療法士の装具への理解と取り組みに相当の影響を与えてきたが、今、変革の時代を迎えている。本特集では最近の装具のシステムを紹介し、それらを運動療法や日常生活動作にどのように活かすのか、具体的にまとめた。

■脳卒中片麻痺に用いる装具の特徴と運動療法実施上の注意点—義肢装具士から見たポイント（山本康一郎論文）

脳卒中片麻痺における装具療法の、装具を用いて崩れたアライメントを補正し、適正な床反力を身体に届け、再学習を促す理学療法士による運動療法の一部分である。装具の種類は継手の違いやトリミングラインの違いなどを含めるとかなり種類があるが、本稿では各装具の特性ではなく、運動療法におけるアライメントと装具の設計に関して提言した。

■脳卒中片麻痺の積極的装具療法の進め方（高木治雄論文）

重度脳卒中片麻痺者に対する長下肢装具を用いた装具療法を紹介する。急性期・回復期で使用する装具に求められる機能は、今後変化するであろう片麻痺者の身体機能や運動療法プログラムの目的に合わせて、装具の条件を変更できることである。Gait Solution 長下肢装具を運動療法の道具として使用することで、運動療法に必要な装具の条件を詳細に設定することができ、廃用症候群の予防と麻痺側下肢機能の改善が図れる。

■長下肢装具による脳卒中片麻痺の運動療法の取り組み（河津弘二、他論文）

筆者らの回復期リハビリ棟では、重症片麻痺患者に対し、簡単に長下肢装具（KAFO）と両側金属支柱付短下肢装具とに切り替えることが可能な大腿部脱着式 KAFO を作製し、運動や生活・活動場面に応じて使い分けを行う早期からの装具療法を導入している。今回は、大腿部脱着式 KAFO の具体的なアプローチと、FIM に及ぼす影響について紹介する。FIM に及ぼす影響では、移乗・移動動作に関する項目や mFIM に関して回復に関与する可能性が示唆された。

■ Gait Solution 付短下肢装具による脳卒中片麻痺の運動療法とその効果（大畑光司論文）

Gait Solution 付短下肢装具の他の装具と最も異なる特徴は、多くの装具が底屈制限や背屈制限などというように「関節角度」を制御するという考え方なのに対し、Gait Solution は Rocker Function という「機能」を補助するという考え方に立脚している点である。本稿では、Gait Solution による運動学的な変化とそれに付随するトレーニングのあり方について概説した。

■ TAPS による脳卒中片麻痺の装具療法とその効果（横田元実、他論文）

脳卒中片麻痺における下肢装具の目的は、下肢装具を用いて、運動の自由度を残存機能でコントロール可能な程度に調整し、運動を単純化することにある。下肢装具は症例の歩行能力に応じて足継手角度や制動力が適宜調整できることが望ましい。これらの点を踏まえて開発された TIMS Adjustable Posterior Strut (TAPS) の機能性、調整性、外観性について述べるとともに、回復過程における TAPS の適応と調整の要点について概説する。

■とびらページ(p189)の作品について：作・解説——牧野文幸氏（口と足で描く芸術家協会）

「春来草自生」

草が自分の意志で生えてくるには、その時を待つ以外にない、という禅語。
春が来れば、草は自然に生えてくる。秋に無理矢理に芽を出しても、幼いうちに冬が来て凍えてしまう。自然の流れには逆らえない。
「あせって物事に当たってもしょうがない、落ち着いてその時を待とう」と教えてくれる言葉です。

■プレゼントのお知らせ 抽選で読者の方 1 名に牧野氏の作品を差し上げます。ご希望の方は、巻末のアンケートはがきに「プレゼント希望」とお書き添えの上、編集室までお送り下さい。